

会議名称	県立中井やまゆり園改革アドバイザー会議
開催日時	令和8年5月26日（火）13時30分から16時15分
開催場所	神奈川県庁 エネルギーセンター棟1階E C 2会議室
出席者	佐藤議長、渡部副議長、大川委員、小西委員、隅田委員、野崎委員、上野委員、高原委員、中西委員、羽生委員
問合せ先	障害サービス課 福祉機構グループ
会議概要	以下のとおり

【議題1 福祉的な検証結果のとりまとめ】

- 利用者に負担をかけている。心理カウンセラー等による心のケアが必要。
- なぜ福祉的な検証が必要になったか整理が必要であるため、明確にしてほしい。
- そもそも利用者の生活史を把握していないことが問題であり、この点を明確にすべき。
- 普段の様子を知らないために小さな体調変化に気付いていないことが重要。結果的に医療につながることが遅れている。
- 「医療を受けることができない人」という認識が医療側にも福祉側に存在したことが問題。リハビリに関しても同様に支援員が相談する内容は安心安全な対応に偏っていた。
- 検証結果は必ずしも1つではなく、身体的、意識的な話に応じて枝分かれしていくものであり、項目ごとに構造を分ける方が適切である。
- 検証結果の分析にあたって、全体としての問題の構造を掴めていないのに分析に入っている。一人ひとりの構造を把握し、その上で分析を行うべきである。
- 検証したのがなぜこの6名になのか分からない

【議題2 アクションプランの評価について】

- アクションプランには福祉機構に対する評価や他の県立障害者支援施設の話が入っていないように見受けられる。
- アクションプランを進捗管理の道具として中井で用いるのは理解できるが、元々の県立施設の改革という策定背景を鑑みたときに、県の取り組みとして障害福祉に対して何をやっていたのか全く見えない。全体の総括のようなものが必要ではないか。
- アクションプランにおける中井の評価については、「十分な成果を得ることができなかった」という結論を一つ抑えた上で次の議論をスタートしていくべきではないか。
- 各柱で取り上げている取り組みについて、項目によって解像度に偏りが見られる。その他にも重要な取り組みがあったはずだが、なぜこれだけ取り上げているのか不明である。
- 本当にやらなくてはいけないこと、本当に目指すべきものが見えなくなっていく。
- 「利用者が主体となった暮らしを構築していくために」、「高い職務倫理の元」などの記載に対する今後の方向性をきちんと書いていかないと意味がないと思う。そのあたりを今後補足していただきたい。